



国際交流は子どもの時から・アジアの会

フェルト製品作りで シングルマザーが大変身

NPO法人「国際交流は子どもの時から・アジアの会」は、1991年の設立以来、アジアの国々で子どもたちの支援を続けてきた。そして今、モンゴルで新たなプロジェクトを立ち上げている。シングルマザーへの職業訓練を通じて、彼女たちの自立を助けることも、子どもたちに幸せを贈ろうという試みだ。

母親たちの温かなたまり場

2009年4月、モンゴルの首都ウランバートル市内に、210平方メートルほどの敷地を持つ施設がオープンした。寄付金や助成金を活用し、アジアの会代表の高岡良助さんが現地の人々と完成させた母子センターだ。事務所や共同作業場、ショップ、絵本図書館、パソコンのトレーニングルームなどを備え、庭には子どものための遊具もある。

「遊牧民が多いモンゴルでは、地域の人々が集まる公民館のような施設もなく、コミュニティがなかなか育ちません。母子センターは、母親や子どもたちが気軽に利用できる施設。彼女たちの「たまり場」ですね。モンゴルの気候は厳しく、冬にはマイナス40℃以下にまで下がりますが、暖房の効いたセンターでなら、皆でおしゃべりできるんです」
高岡さんが母子センターに注目したの

「買い物してこくよ」といって言葉の衝撃
エルト製品の製作技術を学ぶもので、これに必要な器材や備品、資料、材料などの購入費、輸送費、技術指導費などをJICA基金が支援している。

ロシアでデザインを学んだ地元的女性を指導者に迎え、09年9月から始まったこの職業訓練。すでに30人の受講者が3カ月の訓練を終え、習得した技術を生かして商品作りに励んでいる。

「技術を学ぶだけでは意味がありません。製品を作って販売し、実際にお金を手にするまでの一連の過程を経験して



子どもたちと一緒に、センターの庭を整備する高岡さん。長年にわたり世界各地を旅し、貧困や病気などに苦しむ子どもたちに支援を続けてきた



手作りのフェルト製品を手にする母親たち。技術を学び、収入を得る経験を通して、自立心を養っている

こそ、自立心を養うことができるのです」

販売は、日本で53店舗のリサイクルショップを運営するNPO法人「WE21ジヤパン」が協力。モンゴルから届く商品が店頭で置かれ、売れ行きも上々だ。母親たちの「ビジネス」は順調な滑り出しを見せ、やる気もますます高まっている。また、収入を安定して得られるようになった彼女たちの姿は、現在技術を学んでいる20人の受講生たちへの大きな刺激にもなっている。

高岡さんのモンゴルでの活動はすでに10年になるが、最近、そんな彼がある母親の一言にとっても驚かされた。

「母子センターから帰ろうとする母親が、庭で遊んでいたわが子に『買い物してこくよ』と声を掛けたのです。帰宅途中の買い物など、これまでは考えられなかったこと。母親が職を持てば、心にも生活にもゆとりが生まれ、母と子のきずなが深まっていくのではないのでしょうか。職業訓練の効果を目の当たりにした気がしました」
現在、母子センターに集う母親らは

「良き母たち」というNGOを結成している。自分たちの手で、母子センターを運営していこうというのだ。モンゴルの貧困問題を彼女たち自身の知恵と工夫で解決したいという意欲の表れでもある。そのためにも、経営や会計、組織、市場などについて定期的に勉強会を開いている。かつて一日を無為に過ごしていたシングルマザーたちの大変身だ。それは、温かなたまり場があるからこそ生まれた変化である。

高岡さんや良き母たちには壮大な夢がある。自分たちの作った商品を大きなコンテナいっぱい積み込んで日本に送り出すことだ。その時には、彼女たちも研修旅行を兼ねて一緒に日本に行く。「彼女たちにとって、海外旅行は夢のまた夢です。しかし、いつか必ず実現したいと思います」
そして今、情操教育を通じて豊かな心を育てようという新たな願いを込めて、子どもたちに音楽も教え始めている高岡さん。いつの日か、その軽快な音楽に送り出され、母親たちが日本に旅立つときがくるはずだ。



「国際交流は子どもの時から・アジアの会」の活動の様子や団体の詳細、フェルトの小物の購入先などはホームページでご覧いただけます
<http://homepage2.nifty.com/asiakids/>

には理由がある。モンゴルでは、10代での妊娠や夫の失業などによる離婚が原因で、シングルマザーが驚くほど多いのだ。しかも、彼女たちの多くが何もせず、無為に一日を過ごしている。
「一族の誰かの収入に頼って暮らしているんです。しかし、保護者である母親が無職・無収入では家庭は貧しくなるばかりだし、子どもに決して良い影響を与えません。子どもたちの目にも輝きがないんです」

これまでもアジアの会では、子どもたちに奨学金を提供したり、移動図書館を開設して読書感想文コンクールを実施するなどしてきた。しかし、子どもたちの目を本当に輝かせるためには、家庭環境を改善していくためのサポートが欠かせない。

そう考えた高岡さんたちが始めたのが、母親の自立を目的とした職業訓練だ。羊毛を加工して作るスリッパなどフ



(上)センターに集う母親と子どもたち
(左)職業訓練では羊毛の加工方法も学ぶ



あなたの小さな一歩から始まる国際協力
世界の人びとのためのJICA基金

JICAでは、国際協力に関心のある日本の皆さまからの寄付を、開発途上国の貧困削減や環境保全への取り組みに活用する「世界の人びとのためのJICA基金」で受け付けています。皆さまのご支援をお待ちしております。

寄付金の使われ方

お寄せいただいた寄付金は、途上国の貧困削減、医療や教育の提供、環境問題の解決などに取り組むNGOの活動に充てられます。各支援活動や寄付金事業収支についてのご報告は、「JICA寄付サイト」で公表します。

寄付の方法

「JICA寄付サイト」からお申し込み下さい。クレジットカードによる決済や、銀行・郵便振込みなどがお使いいただけます。
JICA寄付サイトURL: <http://www.kifu.jica.go.jp/>